



シリーズ ならさきを元気にする人たち⑨

# 虹色の笑顔で幸せをつなぐ。

しあわせマルシェ発起人 大柴ゆかりさん

た方々と一緒に市民交流センターニコリで定期的に開催する手作り雑貨などを販売する「しあわせマルシェ」を主催するまでになったと言う。

「子育てに悩みを抱えているお母さん方はたくさんいます。手しごとを通してお母さん方の力になりたいんです。」しあわせマルシェにはそんな想いが込められている。

今ではこの活動をさらに発展させ、仲間と一緒に「虹色プロジェクト」を立ち上げ、子どもたちが自由な発想で描く絵を「型染め」という染色法でトートバッグなどの作品をつくるワークショップなどを開催している。

子どもたちは自分の絵が作品になることで自信を持つようになり、お母さん方も作品を作ることにストレス解消や、物を作りあげるといった感動と喜びを得られるのだと言う。

また、ワークショップに参

加するお母さん方の悩みを聞き、共有することで少しでも元気になつてもらえる場になりたい。それが虹色プロジェクトなのだ。

**生まれ育った葦崎が  
好きだからこそ**

「良くも悪くも、私は葦崎から出たことがないんです。生まれ育ったこのまちが好きだから、このまちのことを多くの方々知ってもらい、好き

になつて欲しいんです。」と大柴さんは話す。

7月には、本市が推進するまちなか活性化事業の一つで、空き店舗を活用したチャレンジショップを利用して、しあわせマルシェやワークショップなどを開催した。商店街で活動することで、参加者にまちなかの事を知ってもらうのが狙いだ。

また、ニコリ3階の子育て支援センターとの協体制をつくり、ワークショップの参加者のお子さんを中心に託児してもらつサービスも提案。育児や子育てから少しの時間ではあるが離れていただき、気持ちリフレッシュしてもらつ取り組みもしている。

「お母さんの笑顔には、子どもや、お父さん、そしてまちなかを元気にする力があるんです。」と笑顔で話す大柴さん。笑顔って素敵な魔法ですね！  
(取材・記事 広報担当 歌田)



虹色プロジェクトでのワークショップの様子

**笑** 顔が素敵なんつていま

すよね。作り笑いでない、心から笑っていて癒される人。そのさりげない素敵な笑顔が自然と出る人は相手を楽しくませたり、自分自身も楽しんで出来るのだろう。

しかし、そんな笑顔や優しさがある人は本当は苦労を重ね、大変な思いをし、それを乗り越えて来たからこそ楽しい時には心から笑えて、人に対しては優しいのではないだろうか。

今回ご紹介する穂坂町で手作り雑貨の工房「比奈の家」を営む大柴ゆかりさん。彼女もまたその素敵な笑顔でみんなに幸せを届ける活動をして

いるひとりだ。

**子育て経験が活動の原点**

大柴さんは障がいを持ったお子さんを含む3人の子どもを持ち、日々、育児・子育てに追われる毎日だったそう。お子さんに寄り添い、それぞれの将来を考えたとき、今から子どもたちと一緒にできること、子どもたちにしてやれるは何かを考え、若い時から得意だった手芸などの「手しごと」を始めるようになったと言う。当初は趣味程度だったが、しだいに活動の幅も広がり、自宅の敷地内に工房もつくり、手しごとを通して多くの方とも繋がりができた。

5年ほど前からは、こうし